

映画がつなぐインクルーシブ社会 —医療的ケア児支援法改正とともに考える、子どもたちの未来—

2026年8月11日、日本小児リハビリテーション医学会と日本生体医工学会育児工学未来研究会の合同企画として、オンラインイベント「映画がつなぐインクルーシブ社会」を開催しました。

開催直前の7月24日には、医療的ケア児支援法（正式名称：医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律）の改正法が成立し、いよいよ2027年4月からは、18歳以降の医療的ケア者や重症心身障害者も支援対象となり、子どもから成人期まで切れ目なく支える方向へと大きく前進します。

子どもたちには、「やってみたい」「行ってみたい」「友達と一緒にいたい」「冒険してみたい」というたくさんの思いがあります。医療的ケアや障害があっても、一人の子どもとしてその思いを大切に、やがて成人したときの「こう生きたい」につなげていくことが必要なのではないのでしょうか。今回は、二つの映画を通して子どもたちの未来について考えました。

一つ目は、現在公開中のドキュメンタリー映画『Return to My Blue』（監督：野口雄大）です。人工呼吸器を使用する子どもをはじめ、医療的ケアや障害のある子どもたちが、家族とともに沖縄の無人島への冒険に挑みます。

野口監督からは、リスクがあるから「難しい」と終わらせるのではなく、「どうしたら実現できるか」を一緒に考える大人の存在の大切さが語られました。また、経験することの大切さについても話題となりました。それは必ずしも無人島へ行くような大きな挑戦である必要はなく、一人ひとりの子どもに合った経験を積み重ねていくことが大切なのだというお話が印象に残りました。

もう一つは、小崎慶理理事長が医療監修を担当された映画『時には懺悔を』（8月28日公開予定）です。重度の障害のある子どもたちが、一人の出演者として映画制作に参加しています。何度もリメイクに挑み、真剣に役を演じる子どもたちの姿は、「支援される存在」を越えて、社会や文化をともにつくる「共創」の姿でもありました。

対談では、小崎先生から『Return to My Blue』で子どもたちを船に乗せる場面についても触れられました。最初は恐る恐る対応していた周囲の人たちが、試行錯誤を繰り返すなかで次第に上手になり、最後には「誰が来ても大丈夫」となっていく。その姿から、「小さなやってみようを積み重ねること」の大切さが語られました。

参加者からもさまざまな感想が寄せられました。「どちらの映画も観たい」「多くの人に観てもらい、障害児者のことを知ってほしい」「職場でも紹介したい」といった声がありました。

一方で、映画で描かれた「冒険」は、現実社会の課題について考えるきっかけにもなりました。学校関係者からは、医療的ケアが必要な生徒の修学旅行では、安全を確保するために保護者の付き添いが必要となる場合があり、費用負担も大きいという現状が寄せられました。「外に出かけることに勇気を持つきっかけとして、多くの保護者や学校関係者に今回の講演を見てもらいたい」との声もいただきました。

また、18歳の医療的ケア者のお母様からは、成人期を迎えるにあたり「正に壁が立ちただけ不安な日々を送っています。法改正で具体的に何がかわるのかを知りたい」との切実な声も寄せられました。未就学児の療育に携わる看護師からは、「大人がどれだけ子どもたちに本気になれるかが未来につないでいく鍵だと思います」との感想もいただきました。

子どもの「やってみたい」は、やがて「こう生きたい」とつながります。学びたい、働きたい、暮らしたい、社会とつながりたい。それは、障害の有無にかかわらず、一人ひとりが成長するなかで育まれていく思いです。子どもの時から

大人になるまで、その人らしい人生が途切れない社会をつくることが求められています。

今回の法改正と二つの映画を通して、子どもの「今」を支えるだけでなく、その子がどのような経験を重ね、どのように学び、そして大人になって「こう生きたい」と願うのか、その先の人生まで見つめていく役割があることを改めて感じました。

ご登壇くださった野口雄大監督、小崎慶介先生、そしてご参加くださった皆様に、心より御礼申し上げます。

参加者から「今回の講演を多くの人に見て聞いてもらいたい」との声をいただき、本イベントの録画を無料で公開しております（<https://vimeo.com/1218036708>）。当日ご参加いただけなかった方も、ぜひご覧いただき、子どもたちの「やってみたい」とその先にある未来について、一緒に考えていただけたら幸いです。

東京未来大学こども心理学部・准教授 小谷博子



『Return to My Blue』

人工呼吸器とともに、無人島へ冒険する少年の物語
(現在公開中)



『時には懺悔を』

障害のある子どもたちが、映画の中で一人の出演者として輝く（8月28日公開予定）